



一貫コース通信

何のために学ぶのか？

本校に赴任し、一貫コースの指導にあたって3年目の夏が過ぎようとしている。3年前一貫コースへ配属された私は、自分に務まるか不安で仕方がなかった。教員経験も浅く、赴任の前年度初の東京大学への合格者を出した一貫コースで働くなどやっていけないのではないかと。実際働いていく中で、先生方の高い指導力を目の当たりにし、自分の実力不足を痛感した。教科指導だけではなく進路指導に関しても同様だった。一方で、この環境は己の指導力を向上させる絶好のチャンスだと思った。

私は今、一番数学を勉強している。やればやるほど自分のできなさがみえてくるため不安は常に無くならないし、そんな自分に腹が立つが、私は私なりに日々やるしかない。凹んでいる暇はない。ある人から見たら、勤務時間以外に勉強している今の私を大変だと思うかもしれない。しかし、不思議と嫌だと思ったことは一度もない。それはきっと、私の中学生の頃からの夢が、「教員になり、数学の面白さを伝える」だったことが大きく影響している。教員になった今でも、学びたいという気持ちが無くならない。

では、なぜ私は学びたいと思いついて何のために学んでいるのか、とふと考えるときがある。ここで一冊の本を紹介したい。「手紙屋～蛍雪篇～（著：喜多川泰）」高校2年生の主人公が受験生を目前に、将来と結び付けて勉強する意味を探す話だ。特に、勉強する意味に迷ったときにぜひ読んでみて欲しい。この本文には、次の一文がある。

「勉強という道具は、『自分を磨くため』、『人の役に立つため』という2つの目的のために使ったときに初めて正しい使い方をしたといえるのです。」

私は今、教員という立場からこの2つを満たしていると言えるだろう。極端な話、教員になることが目的ならもう勉強はしなくてよいと思う。しかし、私には数学の面白さを伝えたいという思いがあり、それ以上に生徒たちを志望校に合格させてやりたいという思いがある。そのためにも、前述したとおり私自身の実力はまだまだであるため、自分磨きの勉強をしている。そして培った知識が教科指導で役に立つ。また自分磨きのために勉強する、役立つ……このサイクルを続ける。つまり、自分磨きと人の役に立つことはセットであり、私の中で学ぶ気持ちが無くならない理由であり学ぶ理由なのだ。ぜひ、生徒達には、将来の夢とともに将来自分と関わる人たちのために何ができるか、を考えてみて欲しい。そして、今は直接人の役に立つことはないとしても、将来自分と関わる人のために学び続けて欲しい。

